

性の上昇で発癌と直接的に関係のない肝障害、再生に基づく  $\alpha f$  出現と考えた。肝炎、肝硬変21例につき6ヶ月以上にわたり S-GPT と S- $\alpha f$  を観察し S-GPT の変動パターンと S- $\alpha f$  の消長との関係を追求し6種類の変動パターンを明とした。肝硬変で S- $\alpha f$  が漸次上昇して肝細胞癌を併発していた2例があったが当症例で Au 抗原も又陽性であった。

## 50. Radioimmunoassay による各種肝疾患の $\alpha$ -Fetoprotein の消長

横須賀共済病院 内科 中央検査科

金山 正明

〔目的〕  $\alpha$ -Fetoprotein (以下 AFP) は原発性肝癌に不可欠の診断法であるが近年 Radioimmunoassay が開発されて微量定量が可能になり原発性肝癌以外の肝疾患においても微量ながら本蛋白が血中に存在することが明らかになった。今回は肝癌の治療経過における本蛋白血中濃度の消長および肝癌以外の肝疾患における本蛋白の変動とその臨床的意義について検討した。

〔方法〕 正常人56名、原発性肝癌17名、急性肝炎23名、慢性肝炎29名、肝硬変39名を対象とした。AFP の測定は2抗体法による Radioimmunoassay によった。

〔成績〕 正常人56名における血清 AFP 濃度はすべて 10  $\mu\text{g/ml}$  以下であった。原発性肝癌17例中16例が 9500~342000  $\mu\text{g/ml}$  と著明な高値を示したが1例は 10  $\mu\text{g/ml}$  以下と正常範囲の値を示し AFP 非産生肝癌と考えられた。化学療法例では AFP に著明な変動がみられなかったが肝切除例では著明な減少がみられ再発時に再上昇がみられ再発発見に微量定量が必要と考えられた。急性肝炎では発病後1~2週後から上昇する例が多く最高 490  $\mu\text{g/ml}$  まで上昇したが GPT が正常化する時期にはややおくれて正常範囲まで下降した。亜急性肝炎の3例では上昇が著しくまた AFP 上昇の著明なものは遷延経過をとる傾向がみられた。AFP 濃度と Transaminase や他の肝機能検査の間には有意の相関はみられなかった。慢性肝炎では活動型の大部分が 10~70  $\mu\text{g/ml}$  と軽度の上昇を示したのに対して非活動型では大部分が正常範囲であった。肝硬変では39例中24例が正常範囲の値を示し15例で 10~156  $\mu\text{g/ml}$  と軽度上昇を示したが他の肝機能検査との相関は認め難かった。

〔結論〕 AFP の Radioimmunoassay による微量定量は原発性肝癌の早期発見や治療効果の判定のみならず

急性肝炎における予後の判定や慢性肝炎における活動型と非活動型の鑑別にもある程度の意義を有することが示唆された。

## 51. びまん性肝疾患における Au 抗原と AFP (共に RIA 法) との関連性

岐阜大学 放射線科

今枝 孟義 仙田 宏平 国枝 武俊

〔目的〕 すでに我々は同一症例の Au 抗原および AFP の経時的変動を求めることによってびまん性肝疾患の経過観察ならびに予後判定の可能性について報告した。今回は1回の検査施行例をも加え、Au 抗原と AFP との関連性につき検討をも加え、Au 抗原と AFP との関連性につき検討を行った。

〔方法〕 びまん性肝疾患の内、急性肝炎40例、慢性肝炎56例、肝硬変60例の計156例を対象とした。Au 抗原および AFP の測定は、Ausria-125 Kit (Abbott) および  $\alpha$ -フェト-125 Kit (Dainabot) を用いて行い、Au 抗原は陽性陰性で、AFP は 20  $\mu\text{g/ml}$  以上を異常として判定した。

〔結果〕 急性肝炎においては、Au 抗原陽性の22例のうち12例 (55%) に AFP 20  $\mu\text{g/ml}$  以上を認めたのに比べ、Au 抗原陰性の18例では4例 (22%) に AFP の異常を認めたにすぎなかった。

また慢性肝炎においては、Au 抗原陽性の14例のうち6例 (43%) に AFP 20  $\mu\text{g/ml}$  以上を認めたのに比べ、Au 抗原陰性の42例では6例 (14%) に AFP の異常を認めたにすぎなかった。この内非活動型に比べ、活動型により多くの Au 抗原陽性で AFP の異常例を認めた。

更に肝硬変症においては、Au 抗原陽性の21例のうち13例 (62%) に AFP 20  $\mu\text{g/ml}$  以上を認めたのに比べ、Au 抗原陰性の39例では16例 (41%) であった。

〔結論〕 以上、びまん性肝疾患156例のうち Au 抗原陽性の57例の半数以上 (54%) に AFP 20  $\mu\text{g/ml}$  以上の異常例を認めたのに比べ、Au 抗原陰性の99例では26%に AFP の異常を認めたにすぎなく、Au 抗原の陽陰性と AFP の異常の有無との間に有意の差を認めた。また、臨床的に無症状、無所見の Au 抗原 carrier でも、AFP が 20  $\mu\text{g/ml}$  以上の場合、その多くの症例で肝生検所見に炎症像を認めた。